言われた宥受和尚が、 平鹿郡雄物川町沼館 同町館合の小柳家から二男をもらい受けて寺の子とし、後に寺の分家として独 (旧沼館町)に蔵光院というお寺があるが、三百年ほど前、ここの中興開山と

塩は

田た

すだん

工~

秋田の代表的な経済人

八代目団平

立した人がつまりは初代塩田団平だという。

ものであった。

は小 ,柳団平と称していたが、 のち宥受和尚の生国伊勢の塩田の地名にちなんで塩田と改姓した

在でも塩田 [家と蔵光院に残されている分家書き付けによると、譲られたのは伝家の宝] 刀と田

十刈 されており、代々の団平がその家訓をよく守って努力したので、本稿の主人公である八代目団平のと ただ、その書き付けには「子々孫々に到るまで精励し、よくその一粒を万倍にすべし」と添え書き (約十アール)だけであったというから、 塩田家は最初から素封家であったわけでは

三と言い、三人の弟と四人の姉妹があった。 その八代目が生まれたのは、明治十四年(一八八一)四月一日である。七代目の長男で、 幼名を重

きには、県南でも有数の大地主になっていたのである。

き込まれて中途退学を余儀なくされてしまう。 あこがれの秋田中学に入学した塩田 だが、 明治三十年夏、 奈良磐松の項で詳述したストライキに巻

年にそこを卒業すると二年ほど東京で商社勤めをした後、 に帰ってくる。それが素封家の長男としての務めだったのである。 東京の私立中学を出た後、官立東京高等商業学校(一橋大学の前身)で学んだ塩田は、 父親の病気にともなって三十八年には故郷 明治三十六

四十一年、父親が死去し、塩田は八代目の団平を襲名した。

挙措動作も控えめで経済実務型といった印象の塩田の公的スタートは四十五年に秋田農工銀行の取

締役に就任したことにあるようだが、 初期の活動の中心は経済よりも政治の分野であった。

の大地主という背景もあろうが、 四六)二月まで続く。実に三十四年間連続の在任である。二三七へクタールを所有する県南でも有数 早くも大正二年(一九一三)には三十二歳の若さで沼館町長に当選し、これ やはり塩田の飾らない人格や高い識見が根強い支持を受けたのであ は昭和二十一年

翌十三年三月の総選挙に、 この間、大正八年には県議会議員選挙に立候補して初当選、十二年には再選も果している。 塩田は第七区(平鹿郡、 雄勝郡) から憲政会公認で出馬、みごとに当選

して初めて代議士の座を射止めた。 和三年二月に行われた選挙は、 有権者の納税義務を撤廃して二十五歳以上の男子すべてに選挙権

て塩田は次点に甘んじたが、 五年の選挙では返り咲いて二期目の代議士を務めてい る。

が与えられるなど、わが国最初の普通選挙と言われるもので、選挙制度が大きく変わったこともあっ

責を全うした。つまり、 十四年からは多額納税者として貴族院議員に選ばれ、 塩田は最後の貴族院議員だったのである。 終戦で貴族院が廃止されるまでその職

育ちのよい塩田は、大向こうの受けだけを狙ったような派手な政治活動はしていないが、やるべき まず足元を固めて着実に実現していった。

昭和四年四月、 昭和初期、農村の疲弊を憂え、農村を救うにはその中核となる青年の育成が急務だとして、 沼館農学校を私財を投じて設立したことなどを挙げることができるし、 雄物川下流域

## 羽後銀行とともに

時代は戻るが、植田銀行は、明治三十年に近合名会社として十文字町に発足したものであった。 塩

田が近氏のあとを継いでそこの頭取に就任したのは昭和三年である。

日本は世界恐慌の荒波をまともに受けており、六年には、青森の五

十九

銀行、

岩手の盛

この当時、

岡銀行でそれぞれ取り付け騒動が発生し、本県でも五業銀行が休業に追い込まれている。

このとき塩田は、取り付け騒ぎ寸前の植田銀行を私財を投げうって守り抜き、翌七年、羽後銀行(現

北都銀行)と合併することによって、預金者の利益を保護することに成功したのである。 塩 田

前後の一連の動きは、 塩田に将来にわたる信用を保証し、 昭和十八年に三代目の羽後銀行頭取に就任

する布石となっている。

た。

けでなく、秋田県を代表する経済人の一人として多方面にわたって活躍、多大の功績を残したのであっ 以後、三十六年に会長となって第一線を退くまでの十八年間、 塩田は単に羽後銀行の頭取としてだ

## 横荘鉄道への情熱

田で忘れることのできない大きな業績の一つに横荘鉄道がある。

すでに述べたように、 県南に居住する人々にとって、 日本海側と太平洋側を結 Š Vi わ ゆ る奥 羽 横

断

鉄道の開通は長い間の夢であった。

秋田、 て発足したのが横荘鉄道である。大正五年十月のことであった。 でもあれば奥羽横断鉄道にも取り組みやすいとの意向を示したので、 初に、 岩手の両 横手と黒沢尻 原有志が明治三十九年から (現北上)を結ぶ横黒線 猛運動を始めたところ、 (現北上線、 大正十三年開通) 鉄道院は横手・ それならばと、 の実現をめざして、 本荘 横 に黒線 間 の軽 に先立っ 便鉄道

初代社長は 由 「利側の先輩代議士斎藤宇一郎で、 沼館と本荘の双方から工事が進めら ń

後、十一年に本荘・前郷間、 大正七年八月にまず横手から沼館までが開通、 昭和三年に大森・二井山間、五年に二井山・老方間がそれぞれ開通 さらに館合を経て大森まで通ったのが 九 年 春 した。 その

年に政府に譲渡されて矢島線となり、 しかし、 昭 和初期の農村不況に遭って資金面から全面開通の望みが絶たれ、 それがさらに第三セクターによる現在の由利高原鉄道へとつな 横荘 西線は、 昭 和

がってくる。

直 線で最短距離をというのが鉄道を敷設する際の常識だが、 横荘東線は、 横手を出た後まず沼館

の湾曲コースをとり、さらに逆S字形に館合へ迂回するという大変な蛇行鉄道であった。

これ は、 沼館 品の塩田 |団平、先述した館合 の土田 萬助 0 両実力者の意向に配慮したためと言われ、 今

日まで残る

入 団

|万鉄道>というニックネー

4

の由

来となってい

. る。

横荘鉄道は、 昭和十九年に羽後鉄道と改称されるが、二十三年九月十六日に来襲したアイオン台風

までの路線を廃止、 で老方・二井山 .間の線路が山崩れの土砂に埋まって復旧不可能となり、 四十六年つい に横手・ 老方間が全線廃止になる。 三十七年には鉄橋流失で大森

おりである。

現在は横手

.

沼館間

(羽後交通の経営)

のみとなり、

それもバス輸送に変わっているのは周

知 のと

先に逝った長男・長姉・末弟それぞれの名前にちなんだものである。 止 塩 これを「浩 なった老方・ 田にとって、 紀の林道」と名づけて沼館森林組合に寄付してい この横荘線は見果てぬ夢だったようで、この夢の完結を期すためであろう、 井 Ш 間 0 路 線敷のうち、 雄物 Ш 町内 の二井山 る。 浮蓋峠間 「 浩 ・ 一 を羽後交通から 紀は、 塩 買 先に 田 よ n 取 廃

それ から二年後の 十一月、 心臓障害のため秋田 市にあった県立中央病院に入院 翌三十八年四月

[団平翁顕彰会の手で塩田家発祥の蔵光院に八

代目

団平の胸

像が建立

され

た

十六日、八十一歳で鬼籍に入った。

和三十五年十月、

塩田